

ゴキブリ駆除用ベイトジェル マックスフォース® マグナム



マックスフォース®
マグナム

防除用医薬部外品 ゴキブリ駆除用ベイトジェル

製品名 : マックスフォース® マグナム
種類名 : ゴキブリ駆除用ベイトジェル (防除用医薬部外品)
有効成分 : フィプロニル0.05% (w/w)
荷姿 : 30g×2本、ベイトステーション×24個

Envuは、速効成分フィプロニルを配合した、ゴキブリ駆除用ベイトジェル「マックスフォース®マグナム」の販売を

2016年1月15日より開始しました。

「マックスフォース®マグナム」は、速効性と伝播効果を併せ持つフィプロニルを配合した、ゴキブリ駆除用ベイトジェルです。

液剤散布のような、施工の際の養生が不要で、薬剤臭の心配もないため、時間帯を選ばずに使用することが可能です。

また、ベイトステーション(誤食防止容器)を設置して使用するため安全性が高く、薬剤がゴキブリに食べ尽くされた際の

追加注入や、余ってしまった場合に容器の移動などを容易に行うことが可能です。

さらに、ピレスロイドや有機リン抵抗性のチャバネゴキブリだけでなく、クロゴキブリ、ワモンゴキブリに効果を発揮します。

また、高い喫食性や接触致死効果を有しており、フィプロニルのドミノ効果によって連鎖的にゴキブリを駆除することができます。



様々な害虫・害獣の基礎知識から
防除のポイントまで詳しく紹介します！

ご視聴はコチラから

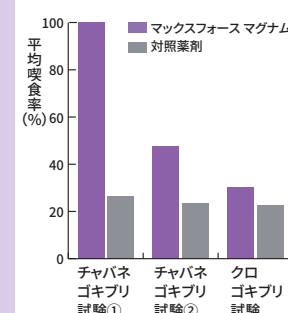
ベイトジェル+ベイトステーションならではの
シンプル&クリーン施工

マックスフォース® マグナムの特長

1 食べて効く

高い喫食性。一口で十分な致死量

ゴキブリが好む餌成分と水分を多く配合した、バイエル独自のアクアジェル処方。



たった一口で致死量の
150倍以上の薬剤を食べる!

1mg

0.0066mg

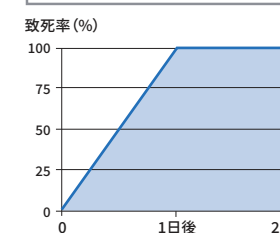
チャバネゴキブリ雄が
一口で食べる量
(平均)

マックスフォース マグナムの
チャバネゴキブリ雄の
致死量 (LD₅₀)

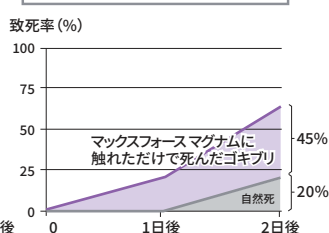
2 触れて効く

高い接触致死効果。

摂食試験
(口を塞いでいないゴキブリのみ使用)

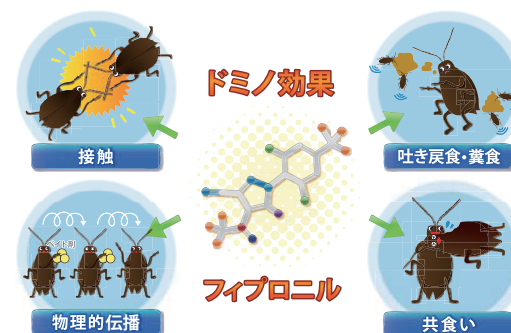


摂食試験
(口を塞いで薬剤を摂食できない
ゴキブリのみ使用)



3 伝わって効く

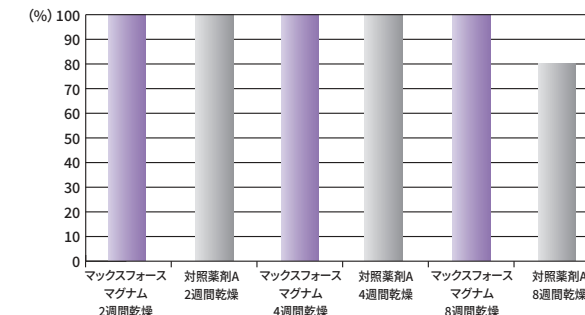
フィプロニルの伝播効果により
高密度の現場でも駆除可能。



4 長く効く

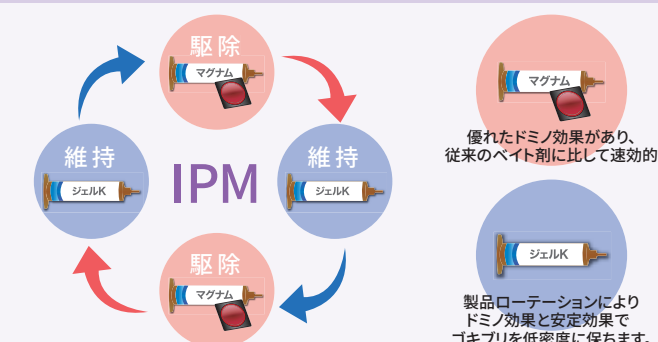
安定した喫食性が維持できる製剤で、
新たに侵入してきたゴキブリも駆除。

乾燥させたマックスフォース マグナムを食べさせた場合の1日後の致死率 (%)



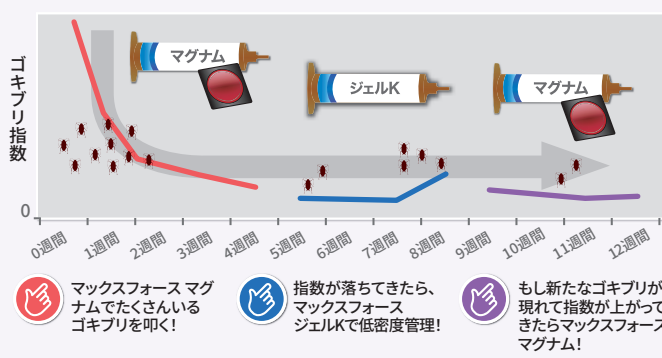
ゴキブリ防除のサイクル

害虫防除(管理)は“駆除”と、一定の密度以下に抑える“維持”です。
これを繰り返すことで、被害を最小限に抑えることになります。
できれば、維持の状態が長く続いて欲しいことはいうまでもない
ことです。



Envuのベイト剤による体系防除

ゴキブリが居る! でも散布はしません。マックスフォース マグナムで駆除をして、その後はマックスフォース ジェルKでゴキブリを低密度に保ち、クリーンな環境をお客様に提供しましょう!



マックスフォース® マグナムとマックスフォース® ジェル Kの ローテーション処理による飲食店のチャバネゴキブリに対する効果

試験① -有効性を確認-

マックスフォース マグナム・マックスフォース ジェル K

試験概要

試験物件：愛知県名古屋市内の中華料理店(店舗面積：39 m²)

試験期間：平成27年12月22日～平成28年9月5日

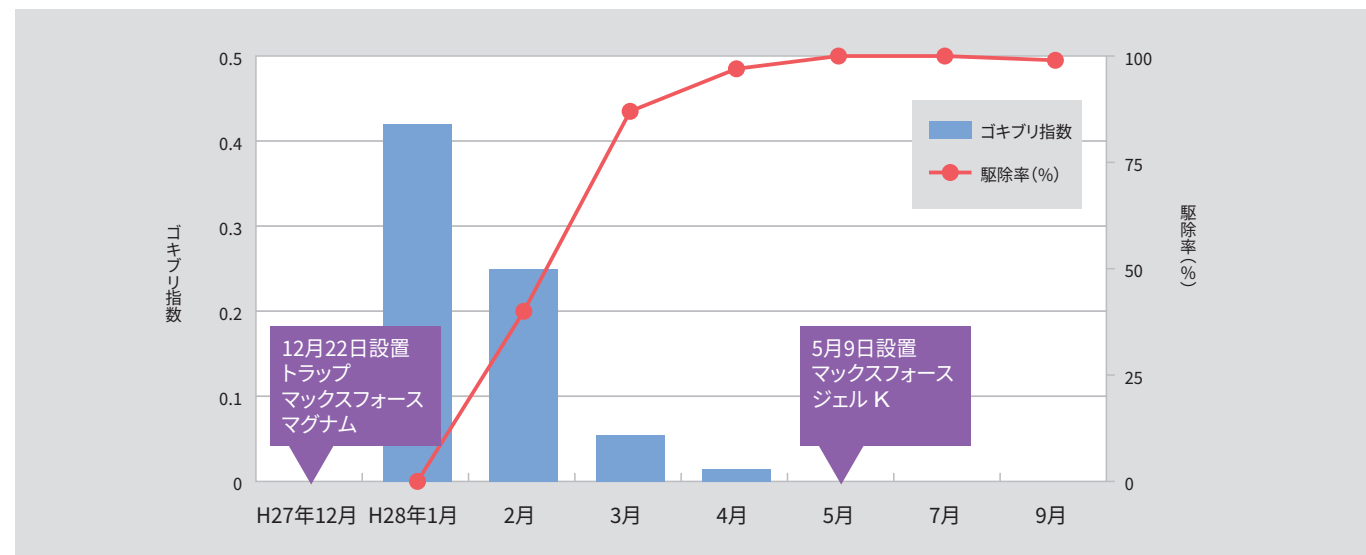
供試薬剤：マックスフォース マグナム(有効成分：フィプロニル 0.05%)

マックスフォース ジェル K(有効成分：ヒドラメチルノン 2.15%)

試験方法：試験開始日となる平成27年12月22日にゴキブリ密度調査用トラップ9個とマックスフォース マグナムを0.4g注入した誤食防止容器10個を厨房内(面積：12 m²)に同時に設置した。その後、平成28年5月9日まで21日～31日間隔で5回、トラップを回収した上でゴキブリ捕獲数を調査し、ゴキブリ指数と駆除率(%)を算出した。5月9日の時点で駆除率が100%になったので、以後は維持管理を目的に薬剤をマックスフォース マグナムからマックスフォース ジェル Kに切り替え、同剤を2g注入した誤食防止容器6個を厨房内に設置した。平成28年9月5日まで約60日間隔で2回、トラップを回収した上でゴキブリ捕獲数を調査し、ゴキブリ指数と駆除率(%)を算出した。

試験結果

マックスフォース マグナムとマックスフォース ジェル Kのローテーション処理による飲食店のチャバネゴキブリに対する効果確認試験



トラップ設置1か月後のゴキブリ指数は0.42だった。その後のゴキブリ指数は低密度で推移し、マックスフォース マグナム設置5か月後(5/9)には駆除率100%(ゴキブリ指数0)を示したので、薬剤をマックスフォース マグナムからマックスフォース ジェル Kに切り替え、ゴキブリを低密度で維持管理できるか検証した。その結果、マックスフォース ジェル Kに切り替えた後も高い駆除率(99.5%以上)を示し、低密度を維持した。

考察

マックスフォース マグナムとマックスフォース ジェル Kのローテーション処理は、飲食店のチャバネゴキブリに対し高い防除効果が認められた。従って、飲食店のチャバネゴキブリの防除には、マックスフォース マグナムとマックスフォース ジェル Kのローテーション処理が有効と思われる。

また一般に、同一製品の長期間に渡る連続使用は、殺虫剤抵抗性を発現する要因であることが知られており、これらを回避するためにもローテーション処理を推奨する。

試験② -店内の清掃が重要-

マックスフォース® マグナム・マックスフォース® ジェル K

試験概要

試験物件：愛知県名古屋市内の中華料理店、店舗面積：約156m²

試験期間：平成27年12月22日～平成28年11月1日

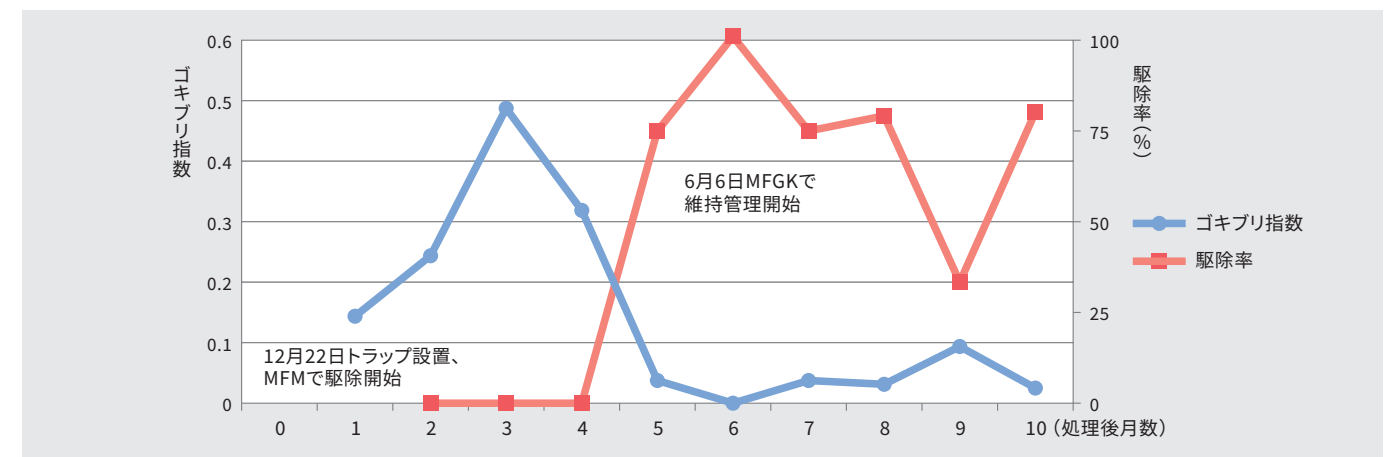
供試薬剤：マックスフォース マグナム(有効成分：フィプロニル 0.05%)

マックスフォース ジェル K(有効成分：ヒドラメチルノン 2.15%)

試験方法：試験開始日の平成27年12月22日にゴキブリ密度調査用トラップ6個とマックスフォース マグナム 0.4gを注入した誤食防止容器8個を厨房内(面積：約80m²)に同時に設置した。その後、平成28年6月6日まで20日～29日間隔で6回、トラップを回収しゴキブリ捕獲数を調査しゴキブリ指数と最初の指数(平成28年1月)に対する駆除率(%)を算出した。平成28年6月6日の時点で駆除率100%になったので、以後は維持管理を目的にマックスフォース マグナムを撤去しマックスフォース ジェル K 2gを注入した誤食防止容器3個を厨房内に設置した。平成28年11月1日まで約30日～60日間隔で4回、トラップを回収しゴキブリ捕獲数を調査しゴキブリ指数と駆除率を算出した。

試験結果

マックスフォース マグナム(MFM)とマックスフォース ジェル K(MFGK)のローテーション処理による飲食店のチャバネゴキブリに対する効果確認試験



試験開始日の12月22日にトラップとマックスフォース マグナムを同時に設置した。設置1か月後のゴキブリ指数は0.14と比較的低密度であったが、2月と3月にゴキブリ指数はやや高めに推移した。その要因の一つとして厨房内にゴミや残渣が散見されたので、ベイト剤の効果に影響したものと思われるので、厨房内の清掃を徹底するよう指示した。その結果、翌月(4月)からゴキブリ指数は低く推移し6月の調査において指数が0になったため、薬剤をマックスフォース マグナムからマックスフォース ジェル Kに切り替えゴキブリを低密度で維持管理できるか検証した。その結果、マックスフォース ジェル Kに切り替えても低密度を維持した。

考察

以上の試験結果からマックスフォース マグナムとマックスフォース ジェル Kのローテーション処理は、飲食店のチャバネゴキブリに対し防除効果が認められた。試験途中から厨房内の清掃を徹底したことも防除効果を高める要因の一つになるということが確認できた。従って、飲食店のチャバネゴキブリの防除には、マックスフォース マグナムとマックスフォース ジェル Kのローテーション処理と厨房内の清掃は有効と思われる。また一般に、同一製品の長期間に渡る連続使用は、殺虫剤抵抗性を発現する要因であることが知られており、これらを回避するためにもローテーション処理を推奨する。なおベイト剤による防除効果を高めるため、店主に清掃の徹底を求めることが重要と考えられる。